

五十嵐中・佐條麻里(著)

「医療統計」わかりません!!

松居宏樹

(国立大学病院データベースセンター)

「エビデンスに基づく理学療法(EBPT)」という言葉が理学療法士の間で使われ始めて、もう随分時間がたったように思います。ここ数年、まだまだ臨床現場の疑問にクリティカルに答えるエビデンスは十分にあるとはいえないものの、諸氏の努力により、少しずつではありますが、理学療法のエビデンスが蓄積されつつあると感じています。

それに伴い、エビデンスを収集し、批判的に吟味し、利用する(エビデンスの活用)、そして、自らエビデンスを作り上げる(エビデンスの構築)能力が、臨床の現場でも必要になってきています。

エビデンスの活用と、エビデンスの構築には、医療統計の知識が不可欠です。その意味で医療統計は、かつての「一部の研究者だけのためのツール」から、「臨床家にとっても欠かせないツール」に変化したと言えます。

しかし、多くの理学療法士や、理学療法士を志す学生にとって、医療統計は馴染み薄い、とっつきにくい、意味不明な数式の羅列に見えていることが多いと思います。あるいは「身長の違いならt検定、人数の違いなら

カイ二乗検定」など、中身のわからないブラックボックスを場合によって使い分ける道具と見なされているかもしれません。

本書は、タイトルの通り、そうした医療統計に苦手意識を持っている人や、医療統計の中身を理解することなく使用している人を対象とした医療統計の基礎テキストで、難しい数式を極力使用せず、わかりやすい例えと豊富なイラストを用いて、医療統計の基礎の部分と、その概念を伝えています。対話形式の文章で書かれているため、もともと医療統計に苦手意識を持つ人にも、とっつきやすい内容となっています。

さらに医療統計の手法・理論だけでなく、エビデンスを活用し、作り上げる上での医療統計の位置づけや限界が述べられています。医療統計のゴールは「臨床的(社会的)に意味がある差」を見いだすことです。そして、「臨床的に意味のある差」の有無は、臨床の現場にいなければ分かりません。

そうした意味で、臨床の現場で医療統計を学ぶことの意味が明確となる、非常に重要な視点を提供してくれるテキストだと感じます。

以上のように、医療統計に苦手意識を持った理学療法士や、理学療法士を志す学生にぜひとも読んでいただきたい一冊であるといえます。

●B5判・240頁

定価 2940 円(本体 2,800 円+税)

2010 年 東京図書・刊